ポスター発表

2025年11月2日(日) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P2] ポスター発表 #2

[P2-23] 歩行者から見て街路沿いの建物の高さと壁面位置が揃っている場所はどこか？

*薄井 宏行[1] (1. 千葉工業大学創造工学部都市環境工学科)

キーワード：街路景観、建物、高さ、壁面位置、可視領域分析

街路沿いの建物の高さと壁面位置は，街路景観を形成する主要な要素である．本稿では，街路景観の水平方向と鉛直方向の寸法である建物の壁面後退距離と高さを「街路景観のスケルトンの寸法」と定義し，街路上の歩行者から見た街路景観のスケルトンが調和している／いない場所を特定し，地図上で可視化をするための一連の方法を開発した．まず，可視領域分析に基づいて建物の隣棟関係を幾何学的に定義し，隣棟関係にある建物の各寸法（建物の壁面後退距離と高さ）の「差」を計測した．つぎに，両者が小さい／小さくない建物群が空間的に集積している場所を，歩行者から見た街路景観のスケルトンが調和している／いない場所として，空間統計的に把握する方法を開発した．一連の方法を東京23区における複数の街路に適用した結果，歩行者から見て街路沿いの建物の高さと壁面位置が揃っている場所を把握することに成功した．

©一般社団法人地理情報システム学会